



106

〈目次〉

座談会「現役生徒と語る 水戸一高生の現在と知道会の未来」 1

新副会長新任挨拶、前会長・副会長退任挨拶 3

一高だより 4

東京知道会 合同企画 日立製作所 新社長 徳永俊昭さんインタビュー 6

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内

発行人 江幡秀則

発行日 令和7年5月15日

通巻 第106号

H P www.chidokai.jp

メール chidokai_mito@chidokai.jp

*HPはカラー版がご覧になれます。



座談会「現役生徒と語る 水戸一高生の現在と知道会の未来」

～若い世代に聞きたいこと、若い世代から知道会に望むこと～

知道会の新会長に江幡秀則氏（昭47卒）が就任しました。新会長を交えて、知道会、現役生徒と一緒に水戸一高生活について語ります。



旧勝田市出身。勝田二中卒業。1977年早稲田大学政治経済学部卒業、ヤクルト本社入社。2010年より東京ヤクルトスワローズ在籍、2017年より同専務。東京知道会会長を、2024年2月まで3期6年務める。龍ヶ崎市在住。

江幡 秀則新会長

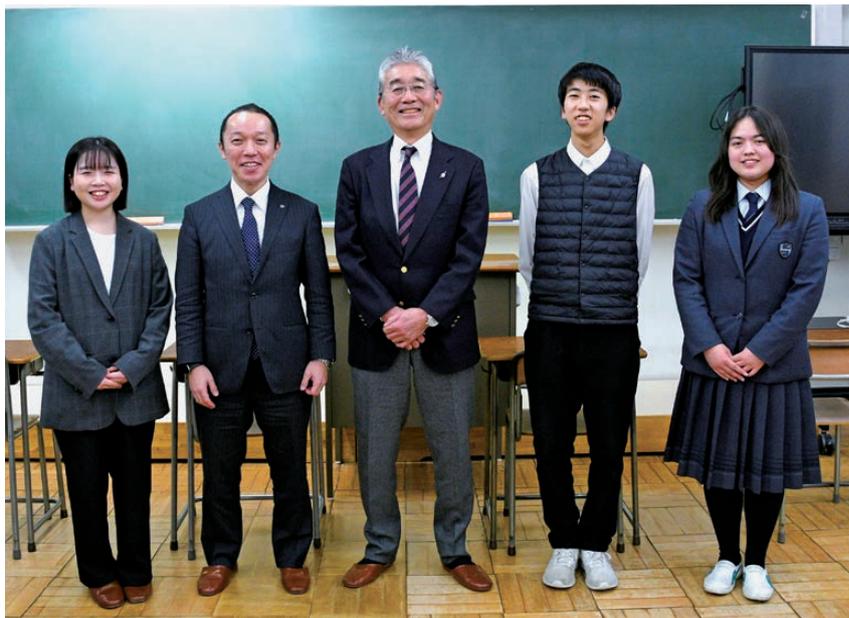
新会長より

－新会長となられるお気持ちは？

江幡：私はこれまで3期6年、東京知道会の会長と、知道会の副会長を兼任しておりました。今期からは知道会の会長となり、こちらに専任する形となります。これまでの知道会会長は、代々、地元の経済界や教育界の重鎮の皆さんが歴任していました。一方、私は仕事もずっと東京で、あまり水戸のことを知りません。また、水戸一高の生徒数は2020年の8クラスから2023年には6クラスとなり、卒業生の数も減少しています。知道会の組織や活動を見直し、強化する時代が訪れようとしているのかもしれないかもしれません。私が会長に就任したというのは、そういった新しい時代に向けたスタートなのかもしれないという気もしています。地元にしがらみのない身軽さで、皆様と一緒に進んでいけたらいいなと感じています。まずは3年後の150周年に向けてがんばっていきたいと思います。

－150周年に向けて考えていることはありますか？

これから話し合っ進めていきますが、何かを新設するというよりも、今ある施設等を生かすという考えで、例えば今は耐震構造に問題が



出席者（敬称略）：左より
井川陽羽（ゆう）（広報委員、令4卒）、和知忠道（進行：広報副委員長、平11卒）、江幡秀則（新会長、昭47卒）、小原幹次郎（おばらかんくろう）（高校生徒会長、26組）、山本美玲（みれい）（中学生徒会長、3B組）
※2025年3月5日実施 役職とクラスは座談会当時のもの

あって合宿ができない知道会館の改修や、江山閣の改修なども検討しているかと思っています。

－江幡会長はどんな学生でしたか？

硬式野球部に入り、一生懸命、打ち込んでいたので、はっきり言って劣等生でした。当時は1学年約430名でしたが、私は400番台にはならないことがずっと目標でした。結果、

3年間通して400番台にはならず卒業できたのが私の誇りですね。

また、私の時代、昭和44年は学生運動がちょうど高校生まで降りてきた時代で、水戸一高もその波に飲み込まれた時代でした。政治活動をしている過激な生徒も結構いましたが、先生は一生懸命、生徒と向き合

※次ページに続く

ってくれていました。そんな中、生徒会の方でも、積極的に討論の場を重ねて制服自由化の要望をまとめ、3年の時には制服自由化が実施されたという激動の時代だったのかなという気がします。

野球部の方では、私が入った年の秋に体育館の新築工事に入ってしまったので、実際に水戸一高グラウンドでの練習はほとんどできないような年代でした。戦績は良くなかったのですが、そういった部活も含めて、私の人生の中では大きな影響があった高校3年間だったんじゃないかな。今日は50年前の学生時代に被っていた帽子を持ってきました。帽子についているこの大きな校章は、胸につけていた小さい校章よりも大きなもので、今では貴重なものです。



一同：歴史を感じますね！

現在の学校行事

一会長、ありがとうございます。最近の学校生活について、皆さんに教えてもらいたいと思います。まず、皆さんの歩く会に対する印象はどうですか？



小原：体育の授業で桜川沿いを毎回走っているとしんどいなという気持ちにはなります。しかし、なんだかんだ本番で40キロ歩いて20キロ走ってというのは、みんな楽しかったと思っているようです。私は「歩実」

(ほじつ・歩く会実行委員会の略)なので、みんながそう感じてくれていてうれしいですし、やってきてよかったなと思いました。

山本：中学生は、約20キロ参加します。1年生の頃は練習がきつく感じましたが、いざ初めて歩ききった時には、達成感や喜びが大きくて感動しました。3年生になり、私も歩実に加入して中学1年生のクラスの引率もこなすことができ、さらに貢献できたという嬉しさも感じるようになりました。高校では距離も伸び、泊まりもあるので、すごく楽しみにしています。



井川：私の学年は、コロナが流行った影響で2、3年生の時のみ、宿泊なしでの1日20キロの開催でした。



大学でも、歩く会のことを話すと驚かれ、いいコミュニケーションになります。コロナでも続けられた行事なので、これからも残してほしいと思っています。

一学苑祭はいかがでしたか？

小原：昨年の学苑祭では、入場を待つ行列が本城橋を越え、水戸二中くらいまでできました。雨の中、トランシーバーを持って誘導するのが大変でした。また、コロナ後としては初めて、喫茶を復活させることができました。



井川：現役のころからフォローして

いるインスタグラムやXで学苑祭の時期に気づき、楽しい気持ちになります。私自身、学苑祭に来て、一高に入ろうと決めたので、一高の出し物のクオリティは高いと思います。

知道会の未来に向けて

一知道会に望むことはありますか？

小原：OBの方と話すと、今の学校生活のようすを聞かれることがありますが、先輩方の時はどんな感じだったのだろう？と思うことがあります。皆でもっとカジュアルに話せる機会が増えるといいと思います。

山本：中学で研修旅行に行った際、西日本水中一高会、アジア知道会の方々とお話をさせていただいた時に、面白く、ためになったので、この座談会もそうですが、広い範囲で皆で話す場も持てたら楽しいのかなと思います。

江幡：知道会の歴史は古く、たくさんの会員がいます。そして多彩です。各高校にOB会はありますが、知道会は、地域知道会も含めて、しっかり組織されています。また、交流の場を持ちたいということであれば、ぜひリクエストしてください。



一ありがとうございました。最後に、会長から若い世代に向けて一言お願いします。

江幡：私からは、先日アメリカ大リーグで野球殿堂入りしたイチローの言葉を贈ります。「自分の能力を生かす能力はまた別にある」。プロ野球の選手になるような人は、野球に対する高い能力をほぼ全員が持っています。しかしそれだけでは一流にはなれない。その能力を伸ばす能力は別にあって、それをしっかり磨かないと一流になれないということです。水戸一高に入ってくる生徒は基礎的な能力は高いですが、それを生かす能力を磨き上げていくことをしっかり行っていただきたいと思います。

撮影／平戸正英
(広報委員、平13卒)



新任副会長挨拶

副会長

高村 祐一
(昭56卒)



この度、江幡会長のもとで副会長を仰せつかりました。

令和5年3月までの4年間母校の校長を務めさせていただき、附属中の開校にも携わりました。在任中は知道会の皆様から多大なるご支援を

いただき、心より感謝申し上げます。

定年退職となり、学校の外から生徒の活躍を見守るようになりました。母校が今どんな課題を抱え、どんな支援を必要としているのか、また、生徒が充実した学校生活を送り、持続可能な社会の重要な担い手として成長する過程で知道会が主体的にどんな支援ができるのか、学校との情報交換を密にしながら、学校との懸け橋として尽力したいと考えております。

会員の皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

副会長

笹嶋 正
(昭54卒)



このたび副会長を拝命いたしました。昭和54年卒の笹嶋です。この2月の東京知道会会長就任に伴い、知道会本部の活動にも関わらせていただくことになりました。

新型コロナウイルスの影響で同窓会活動が制限されていた時期もありましたが、ようやく従来の行事や活動が再開され、それぞれの「集い（総

会）」の開催や水戸・東京合同でのゴルフコンペなどの交流も行われるようになりました。

一方で、対面での活動ができなかった時期においてwebを利用した交流が行われるようになり、地域に限定されていた活動範囲が日本全国、さらには世界へと広がる可能性も出てきております。

卒業生が減少していく中で、若手を中心とした会員の確保は大きな課題ですが、知道会の活動を通じて、高校卒業から退職後まで人生の各ステージにおいて同窓生と関わる事ができる環境づくりができればと思っております。会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

知道会会長退任のご挨拶

令和6年11月の会員の集い開催日に合わせて開催された第74期代議員会の終了をもちまして、知道会会長の職を退きました。

令和2年11月の就任以来、4年に渡りまして、母校の知道会の会長を務めることが出来たのは、ひとえに会員の皆様方のご支援、ご協力の賜物であります。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

母校水戸一高は、創立150周年が間近に迫り、また、附属中学校から高校へ進級した生徒がいよいよ高校生として活躍している時でもあり、ここ数年副会長として知道会を見守ってこられ、母校を熟知されている江幡秀則新会長が就任されたことは、まことに喜ばしいことと思っております。

会員の皆様におかれましては、引き続き知道会活動へのご協力をお願いいたしますとともに、母校水戸一高並びに知道会の益々の発展を祈念いたしまして、御礼のあいさつさせていただきます。

稲葉節生 (昭38卒)

退任に当たって

稲葉会長と共に4年間副会長を務めましたが、就任の際まず頭に浮かんだのは山口清隆副会長（昭和5年卒、水戸商工会議所OB）のことでした。山口先輩とは水戸一高が創立100周年を迎えようとしていた昭和50年に、100周年事業実行委員会でお会いしました。当時私は母校の教員でしたが、母校のために労をいとわず同窓会の皆さんを鼓舞する姿が印象に残りました。その後110周年事業において生徒海外派遣事業を立ち上げる際にも、知道会副会長として母校側を全面的にバックアップしてくれたお陰で現在の水戸一高生徒海外派遣の源流が作られたものと思います。自分としては、山口先輩のような多方面にわたる力は持てないまでも、時代と共に変化する知道会という組織体を次に繋げるという役目は果たせたのではないかと考えています。最後に、少子化の進行が懸念される中ですが、活気ある知道会が長く続きますよう祈念して退任の挨拶といたします。

後藤克己 (昭43卒)

第74期 知道会幹事会及び委員会名簿

顧問	後藤卓三 (S19)、角田芳夫 (S28)、鬼澤邦夫 (S38)、稲葉節生 (S38)、御厩祐司 (校長)
会長	☆江幡秀則 (S47)
副会長	井内義興 (S33)、栗原英則 (S48)、伊藤道子 (S53)、☆笹嶋正 (S54)、☆高村祐一 (S56)
幹事長	河野秀幸 (S63)
副幹事長	飯塚博之 (S56)、鹿志村茂 (H5)
総務委員会	*◎齋藤修 (H6)、☆◎照沼裕一 (H3)、*◎坪井正幸 (H5)、黒木雅宏 (S58)、橋本慎 (S58)、竹村広治 (H3)、加瀬昭宏 (H5)、佐藤蘭弥 (H8)、星野博史 (H11)、住谷直樹 (H14)、矢板淳一 (H16)、北澤佑子 (H17)、山村美樹 (H19)、藤枝咲絵 (H23)
財務委員会	*◎出澤琢磨 (H1)、*◎仲田留美 (S63)、*◎坂本正弘 (H1)、太田聖史 (S58)、猪野嘉彦 (H2)、坪なぎさ (H3)、浦田裕士 (H7)、小川哲 (H8)、稲野知穂 (H19)
名簿委員会	*◎野村貴広 (H7)、*◎後藤直樹 (S54)、加賀美理帆 (S59)、須能浩信 (S60)、岡村太郎 (H7)、岡村有希子 (H7)、渡邊優美 (H15)
広報委員会	*◎磯美保 (S60)、*◎和知忠道 (H11)、内藤学 (S53)、後藤岳志 (S54)、平井夏樹 (S56)、栗田真人 (S57)、平山桂己 (S59)、小林典子 (H6)、小野瀬勇一 (H8)、中原清人 (H9)、平戸正英 (H13)、☆井川陽羽 (R4)
親睦委員会	*◎加藤尚弘 (H6)、*◎磯崎雄司 (H1)、*◎海老根武 (H2)、田部田英智 (H6)、堀野辺直 (H6)、藤田奈津子 (H13)、☆根本龍典 (H14)
幹事	*小田木健治 (S59)、☆*川和田由紀子 (S59)、☆*嶋崎敏樹 (S63)、*長山昌子 (S62)、☆*沼田祐治 (H19)、☆*浅野茂生 (S59)
監事	安智範 (S60)、☆小野瀬貴久 (H18)
事務局	石川裕 (S50)、☆綿引秀明 (S61)

() 卒業年次、* 幹事、◎委員長、○副委員長、☆新任

2025.4.1現在

令和6年度 海外派遣プログラム (米台) 実施報告

昨年度から米国と台湾の2方面になった海外派遣プログラムについて、引率教員からの報告を紹介します。

米 国

令和7年1月11日～17日の日程で、高1生35名、中3生5名が米国海外派遣プログラムに参加しました。全日程快晴に恵まれ、西海岸サンフランシスコの温暖な気候の中、充実した時間を過ごすことができました。ゴールデンゲートブリッジなどの市内観光、グーグルやアップルなどの企業見学、Wilcox高校での同年代との交流、スタンフォード大学とカリフォルニア大学での模擬講義やキャンパスツアー、その一つ一つの経験が生徒たちにとってかけがえのないものとなりました。

本研修に際しまして、Wilcox高校訪問をご企画くださいました上田敏子様（昭60卒）はじめ、知道会の皆様には多大なご支援をいただきま

した。ありがとうございました。
最後に、生徒たち自らが事前指導で設定した目標を紹介します。

「チャレンジ

～すべての垣根を越えて～

今後もこの目標の下、一人一人が様々なことに挑戦し、成長し続けることを、引率教員として強く期待しています。

(引率：花沢典行、小瀬航)



スタンフォード大学訪問（講義）



ウィルコックス高等学校交流



ゴールデンブリッジ見学

台 湾

令和7年3月3日から4泊5日の日程で、高1生29名と中3生11名が台湾への海外派遣プログラムに参加しました。初日の移動では、桃園国際空港から宿泊先のホテルに向かう途中、日本の新幹線技術を取り入れた台湾高速鉄道の新幹線に乗ることができました。2日目は、午前中にTSMC博物館と科学園区科技生活館を見学し、午後国立新竹科学園区実験高級中等学校を訪問し、英語で交流しました。

3日目は、午前中に国立故宮博物院を見学し、午後旧帝国大学の国立台湾大学を訪問し、謝



国立新竹科学園区実験高級中等学校交流



国立台湾大学訪問（講義）

欣苒先生の講義を受けました。その後、台湾大学の学生と交流しながらキャンパスを案内してもらいました。4日目は、昼間はB&Sプログラム（Brothers and Sisters Programの略で、現地学生とペアやチームを作って交流。）で現地の大学生と英語で交流しながら台北市内を見学し、夕方には淡水で夜市を体験しました。最終日は、中正紀念堂を見学し、蒋介石の大きな座像と中国式庭園を見ることができました。

台湾派遣では台湾の歴史と文化に

触れ、台湾と日本を新しい視点で捉える機会となりました。また、英語がコミュニケーションの手段であることを実感し、今後の英語学習への大きなモチベーションにもつながりました。生徒たちが大きく成長できたのは、知道会の皆様のご支援のおかげだと心から感謝申し上げます。

(引率：浅野玲子、ゴンザレスアンドレス)



中正紀念堂見学

部活動報告

英語研究同好会部 (ESS)

12月21日、22日に岡山県で行われた、第19回全国高校生英語ディ



ベート大会in岡山に2年生6名が出場した。論題は『日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。』事前に入念に準備をした上で行うスタイルのディベートのため、学苑祭後から部員全員で根拠となるデータ集めを続けた。結果は3勝1敗2分で全64チーム中17位、2年生1名が優秀サマリースピーカー賞を受賞した。これはチーム、ポジションに関係なく、9名全員の努力、そして先生方のサポートのおかげだ。

2年生にとっては目標であった念



願の全国大会出場、1年生にとっては来年につながる良い経験となった2日間だった。今後の活躍にも期待したい。

そしてディベートとESSの楽しさがより多くの方に広まることを願う。

日立製作所の新社長に就任 徳永俊昭さん（昭60卒）

2025年4月、徳永俊昭さん（昭60卒）が日立製作所の代表執行役 執行役社長兼CEO（最高経営責任者）に就任された。創業の地、日立市出身としては初の社長である徳永さんに、東京知道会と合同でお話を伺った。

※インタビューは就任前の2025年3月7日

ー社長となられるお気持ちや抱負をお願いします。

日立が成長している中でバトンを受け取ることに對して、プレッシャーがないわけではないですが、やりがいを感じています。これから日立がより成長するためには、近年力を付けて強くなってきた一つ一つの事業をより一層連携させて、日立にしかできない価値を作り出していきたいと考えています。私はこれを、デジタルをコアにした「真のOne Hitachi」と呼んでいます。これを実現することこそが私の社長としての抱負です。

ーこれまで手がけた仕事で、印象的なものは？

3つあります。1つ目は、入社した1990年の秋に、人生初の海外となるロンドン出張に行かせてもらったことです。海外経験がない新人にも出張のチャンスくれたことに感激したのと同時に、海外での生活は非常に刺激になりました。今でこそグローバル事業を色々やってきたのだろうと言われますが、実は会社に入るまでパスポートも持っていませんでした（笑）。2つ目は大きな仕

事という意味で、メガバンクの統合プロジェクトです。社会インフラである決済システムに大きな影響を与えるため、ミスが許されない緊張感の高い状況のなか、最大1,500人の仲間と約5年間を過ごした思い出深い仕事です。3つ目は、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、アメリカのIT企業であるグローバルロジック社を、約1兆円を投じて買収したことです（※1）。

ー日立製作所と日立市が進めている次世代未来都市共創プロジェクト（※2）は、どのような思いがもたれていますか？

地方都市がどんどん衰退していく状況を何とかしないと、日本にとって大きな損失になってしまうという思いからスタートしています。日立市には、日立製作所の社員がたくさんいますし、研究所、工場、病院など、活用できるアセットがたくさんあります。加えて、市民の方が日立製作所に対してポジティブな印象を持ってくださっており、強力なサポートが期待できます。そこでこの環境を活かして、地方都市を元気にするスマートシティプロジェクトをまず日立市で成功させようと考えました。その上で、他の都市等に展開していきたいと考えています。

ー高校生活で印象的だったことは？

似たようなバックグラウンドを持つ人が集まる近隣の小中学校で過ごした後に市外の高校へ入学したので、私にとって水戸一高への入学は、多様なバックグラウンドを持つコミュニティに初めて身を投じる機会だったと言えます。水戸一高の生徒は、まだ高校生であるにもかかわらず、今までの人生に対する誇りや、これから進む道への明るい見通しを持ち、自信に満ち溢れているように見える人がたくさんいました。入学当初は「世の中にはこんなにキラキラした人たちがたくさんいるのか」と衝撃を受けたのが印象



に残っています。何よりも一人一人、自分の頭で考え判断し、常に一人称で行動していることに刺激を受けました。ここで目の当たりにした“一人称で行動すること”は、実は、私が日立の社内に対しても頻繁に伝えているメッセージの一つです。何か変化を生み出そうとする時、その起点は必ず自分自身である、という考えを大切にしています。

ー後輩や若い世代に贈る言葉をお願いします。

中学・高校時代には、刺激を受けて、自らを成長させる機会やそれに見合うコミュニティがきっとあるはずですので、思いっきり楽しんでいただきたいと思います。それは時には、自分にとって必ずしも心地よいものでないかもしれないですし、あるいは従来の自分が無意識的に距離を取ってきたものであるかもしれません。しかし、それもひっくるめて、経験してみる価値は十分にあるのではないかと思います。

また、水戸一高で培われた人脈は相当強力です。仕事をしていても、プライベートの場面でも、この人脈が非常にありがたいと思うことは本当に多いので、多様性に富む人たちが学び、社会の様々な場所で活躍する水戸一高のネットワークを大事にしてもらいたいと思います。

※1. 日立はデジタル事業をグローバルに強化するため、2021年7月、過去最大規模の約1兆円を投じて米GlobalLogic（グローバルロジック）を買収した。

※2. デジタル技術の活用と共創活動の推進を通じて、日立市全体の活性化及び市のすべての人が豊かに生活することのできる安全・安心なまちの実現をめざすプロジェクト



地元または現在の住所地に近い地域知道会に入会することができます。入会ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

令和5年卒同窓会

3月22日(土)、水戸京成ホテルにて令和5年の卒業生および3年生時の担任団の先生方、合計169名にご参加いただき20歳の節目となる同窓会を開催いたしました。

私たちは新型コロナウイルスの流行とともに高校生活をスタートし、3年間マスクを着用し続けてきた世代です。在学中はみんなで校歌を歌う機会もありませんでしたが、今回の同窓会で初めて全員で応援団のコールに合わせて校歌を斉唱することができました。

高校卒業から2年が経ち、マスクを外しての再会。学苑祭でも活躍した司会コンビや漫才コンビが場を盛り上げ、大いに笑いと歓声が溢れる暖かな会となりました。また、それぞれの近況報告や高校時代の懐かしい思い出話を花を咲かせ、楽しい時間を過ごしました。同級生たちの成長や変化を感じるとともに、当時の絆が今も変わらず続いていることを実感できました。

10年後、私たちがどのような道を歩んでいるのか今から楽しみです。
菅谷莉央 (令5卒)



大学地域連携学会大会の水戸開催を終えて

大学地域連携学会という新しい学会があります。昭和63年卒の青山清英君、藤阪(現姓土屋)弥生さん——現在日本大学の教授をされているお二人が中心となって立ち上げた学会です。これまで開いた3回の学会大会は全て東京の日大キャンパスでの開催でしたが「大学と地域との連携」を標榜する学会としては東京以外の地域での開催はとても重要なこと、今回その嚆矢として水戸で第4回大会を開催することを決めました。

63年卒の誼で私と奥村理絵さんも学会の理事を務めており、私は実行委員長、奥村さんはシンポジウム担当ということで準備・運営に携わりました。

2024年11月16日～17日の2日間に亘って開催された大会、2日目メインプログラムとなったシンポジウムのテーマは「外から来て根付く、内から育っていくー水戸芸術館×木内酒造×サザコーヒー」としました。茨城開催ということで茨城が誇る3法人を代表する方々にシンポジストをお願いした次第です。特に水戸芸術館大津良夫副館長は昭和49年卒、木内酒造木内敏之社長は昭和57年卒の先輩であり、私と奥村さんは大船に乗った気持ちで進行役を務め、おかげさまで成功裡に終わることができました。

こうして東京以外での開催を水戸が魁となり成功させることができ、今後も当学会の学会大会を東京以外で開催する方向性を確立することができました。これも水戸という地の力、そして一高同窓生の絆があったことだったと思います。水戸、一高、ありがとう！

仁衡琢磨 (昭63卒)



合同委員会を開催しました

2月1日(土)17時から水戸京成ホテルにおいて合同委員会を開催しました。江幡新会長の下で知道会の運営に当たる各委員会メンバーが集まり、河野幹事長と各委員長から現況と活動方針についての説明の後、江幡会長から各委員に委嘱状が交付されました。委員会終了後には懇親会を行いました。



第74期第53回代議員会

第74期(令和6年10月～令和7年9月)第53回代議員会が令和6年11月16日(土)知道会会員の集いに先立ち13時から水戸京成ホテルにおいて開催されました。審議等概要は以下の通りです。

- 第73期事業報告として委員会活動と事業、母校助成協力事業および学年・地域・職域知道会の活動状況が河野幹事長から報告され、了承されました。
- 第73期決算について出澤財務委員長から、監査結果について安監事から報告され、承認されました。
- 第74期の事業計画案が河野幹事長から説明され、原案通り承認されました。
- 第74期の予算案が出澤財務委員長から説明され、原案通り承認されました。
- 母校創立140周年記念事業における報告が河野幹事長より報告され、了承されました。
- 役員改選について、指名委員会から会長に江幡秀則氏(昭47卒)、監事に安智範氏(昭60卒)・小野瀬貴久氏(平18卒)が推挙され、承認されました。

第74期 収支予算書

自令和6年10月1日
至令和7年9月30日

収入の部				(単位:円)
科目	予算額 a	前期予算額 b	増減額 a-b	備考
年会費	7,500,000	7,000,000	500,000	
卒業生入会金	1,200,000	1,400,000	△ 200,000	240名(6クラス)
寄附金収入	500,000	500,000	0	
会員の集い収入	2,200,000	2,200,000	0	300名参加+広告料収入
グッズ販売収入	100,000	100,000	0	冊子・ネクタイ等
受取利息	200	100	100	
特別積立金取崩	0	0	0	
140周年会計から繰入	2,000,000	2,000,000	0	※1 ※2
雑収入	50,000	50,000	0	
当期収入合計	(13,550,200)	(13,250,100)	(300,100)	
前期繰越金	(4,351,945)	(4,900,144)	(△ 548,199)	
収入の部合計	(17,902,145)	(18,150,244)	(△ 248,099)	
支出の部				(単位:円)
科目	予算額 a	前期予算額 b	増減額 a-b	備考
運営費	(11,100,000)	(10,850,000)	(250,000)	
会員の集い費	2,200,000	2,200,000	0	
会議費	200,000	200,000	0	合同委員会・連絡会
事務局運営費	1,500,000	1,500,000	0	事務局人件費
システム維持費	200,000	150,000	50,000	ネットワーク・会員システム会計ソフト保守
通信費	2,200,000	2,200,000	0	会報送料等
消耗品費	150,000	150,000	0	
旅費交通費	200,000	200,000	0	地域職域知道会総会出席旅費
渉外費	100,000	100,000	0	
支部強化費	400,000	400,000	0	学年・地域知道会総会祝金
振替手数料	1,000,000	750,000	250,000	年会費等振替手数料
印刷費	3,000,000	2,800,000	200,000	会報・振替用紙等印刷費
リース料	200,000	200,000	0	
事業費	(400,000)	(400,000)	(0)	
総務委員会費	20,000	20,000	0	
財務委員会費	20,000	20,000	0	
広報委員会費	100,000	100,000	0	
名譽委員会費	10,000	10,000	0	
親睦委員会費	150,000	150,000	0	
会費納入促進対策費	100,000	100,000	0	自振キャンペーン
母校助成費	(3,360,000)	(3,360,000)	(0)	
卒業記念品費	660,000	660,000	0	卒業証書フォルダー、マグカップ
歩く会補助費	200,000	200,000	0	トランシーバー等
大会遠征補助費	600,000	600,000	0	※1
卒業生褒賞費	400,000	400,000	0	
海外派遣助成費	1,500,000	1,500,000	0	※2
特別積立金繰入	(0)	(0)	(0)	
予備費	(3,042,145)	(3,540,244)	(△ 498,099)	
当期支出合計	(17,902,145)	(18,150,244)	(△ 248,099)	
次期繰越金	(0)	(0)	(0)	
支出の部合計	(17,902,145)	(18,150,244)	(△ 248,099)	

※1 生徒の大会出場交通費に対する140周年記念事業募金を原資とした助成
※2 「生徒海外派遣プログラム」に対する140周年記念事業募金を原資とした助成

総務委員会

2月1日(土)に水戸京成ホテルにて第74期幹事会・合同委員会を実施いたしました。江幡会長から各役員、委員への委嘱状の交付がされました。役員、委員メンバーの委員会を越えた横の繋がり、懇親においても有意義な時間となりました。

また、令和7年知道会会員の集い実行委員会を5月より実施いたします。11月の知道会会員の集いに向けて、総務委員会と本年の集いの企画運営にあたる学年幹事(平成6年、平成16年、平成26年卒)で構成される委員会を5月より毎月実施予定です。若い会員から大先輩まで、たくさんの会員の皆様に参加していただき、楽しく懇親を深められる集いを開催できるよう実行委員会一丸となって計画を進めていく所存です。皆様、さっそく手帳の11月15日(土)に「知道会会員の集い」と予定を入れていただき、楽しみにお待ちください。

(総務委員長 齋藤修(平6卒))

財務委員会

知道会年会費で母校支援!

知道会の年会費は、本会の運営費のみならず母校支援にも使われております。皆様の年会費が後輩の学校生活の一助になる、素敵なおことですね。母校支援のためお忘れなく年会費の払込みをお願い致します。

年会費の払込みには郵便振替、銀行振込、自動引落とし、コンビニ払いに加えて、スマホ決済もご利用頂けます。スマホ決済は、会費の払込取扱票(郵便振替用紙)の通信欄に記載のバーコードを決済アプリで読み込むことでお支払いを進めて頂けます。払込取扱票が付いている会報が届いている方は是非ご利用下さい。

自動引落としも引き続き絶賛受付中です。次年度から自動振替をご希望の方は、今年度分の年会費払込みの際に払込用紙の通信欄に「自動振替希望」とご記入頂くか、お電話にて事務局(TEL 029-226-3960)にご連絡下さい。

財務委員会では、払込み方法の多様化を含めて更なる利便性向上の検討を進めて参りますので、引き続きご協力を賜りますようお願い致します。

(財務委員長 出澤琢磨(平1卒))

名簿委員会

加賀美前委員長の後任として委員長を拝命致しました野村と申します。

個人情報やプライバシーへの関心の高まりから、OB会等における会員名簿の発行には様々な配慮が必要となっております。難しさを増しています。

最新の会員名簿は2023年(令和5年)に発行されておりますが、同名簿への反響等を見ながら、次回の名簿発行に向けて検討を重ねて参ります。

会員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(新任:名簿委員長 野村貴広(平7卒))

親睦委員会

懇親を深める内容は、千差万別です。当委員会では、これまでゴルフやミニ歩く会などを行ってきました。参加者は50人ほどになります。これからは、卒業生対象だけではなく、現役の生徒にも交流を持ってもらいたいと考えております。卒業したらそれぞれの人生を歩みます。大学、会社、家庭、日本、海外、宇宙まで広がることでしょう。ふと、立ち止まることもあるかもしれません。その時に、居場所となるものが親睦委員会であればと思っております。

(親睦委員長 加藤尚弘(平6卒))

広報委員会

知道会報は、春号(偶数号)はweb、秋号(奇数号)は印刷にて全会員の皆様に郵送いたします。春・秋ともweb版はカラー掲載ですので、ぜひ知道会HPよりご覧ください。なお、昭39卒以前の会員の皆様には、春号も郵送致します。今期より、令和卒の委員も加わりました。若い世代を中心に閲覧者の多いSNSも積極的に活用しながら、母校と知道会、そして会員の皆様同志をツールとして、幅広く情報を掲載して参ります。

(広報委員長 磯美保(昭60卒))

年会費の納入に、スマホ決済も利用できます。

コンビニエンスストアでの払込票に、スマホ決済用のバーコードが追加されました。PayPay、au PAY、PayB を利用している方は、アプリを起動し、払込票下部のバーコードを読み込み、ご自宅ですべてコンビニ支払を完了することができます。

預金口座振替もできます。現在、「口座振替キャンペーン」として口座振替の手続きをして頂いた方を対象に、クオ・カード(1,000円)を進呈しております。

詳しくは事務局(029-226-3960 月・水・金)にお問い合わせください。



ホームページから登録内容の変更手続きができます!

◎会員情報変更フォーム <https://chidokai.jp/desk/r-form/>
 その他お問い合わせ chidokai_mito@chidokai.jp



事務局

月・水・金(祝祭日を除く)
10:00~15:00

来局の際は、事前にご連絡をお願い致します。



学校基本データ

学校創立 1878年(明治11年)10月2日
 令和7年 創立147年
 同窓会員数 40,402名
 住所判明者数 23,240名
 在籍生徒数 高校 728名(男子419名 女子309名)
 中学 239名(男子120名 女子119名)
 (令和7年4月現在)